

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200685		
法人名	社会福祉法人 薫風福祉会		
事業所名	グループホーム みどりの家 連島中央(1F)		
所在地	倉敷市連島中央4丁目10-30		
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 6 日	評価結果市町村受理日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あるがままに」「共にあるを大切に」を事業所のコンセプトに掲げ、個人の尊厳と人権を尊重しながら、その人らしい人生の実現を目指しています。また、職員の働く姿勢として「楚々として凛として」という新しいコンセプトを掲げています。コンセプトを実践すべく「行動規範」を掲げ、職務を遂行する上での戒めとしています。また、利用者に対しては、日常生活をスケジュール化しないで、その時どきの個々の思いや生活習慣を大切にしながらの柔軟な支援を心がけています。趣味を生かした余暇活動、散歩、買い物等を楽しんでいただいています。食事は、調理を外部に委託して、その分職員が利用者に十分な関わりが持てるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200685-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200685-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 27 日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム長は「我が家のように」、「住まいは綺麗に」の精神で環境整備に力を入れている。居室の清掃はもちろんのこと、リビング、廊下、お風呂、トイレ、玄関は清潔さが保たれていた。さらに、夜勤帯の職員が乾燥機の掃除もしている。日常で使う家電製品(炊飯器や洗濯機)なども綺麗して使うことを意識している。ホーム長は、毎日楽しく過ごしてほしいと考えており、「職員が楽しくないと、利用者が楽しめない」との精神で、日々のケアに臨んでいる。利用者の性格は一人ひとり違うので、その人にあった言葉掛けやケアの方法にも工夫を凝らし、トラブルが起きた際の対応や、周りの人に対してのケアも重点的に行えるように取り組んでいる。自分から意見を訴えるのが少ない方へは、言葉掛けのタイミングや寄り添う姿勢を大切にしている、本や雑誌が好きな方へは、心ゆくまで堪能して頂き、話をするのが好きな方へは話す機会を増やすことで、利用者が生き生きとした生活を送ることに努めている。現ホーム長と次期ホーム長の関係性も良く、評価中もお互いが冗談を言い合うことで、場が和んでいた。そんな2人の思いは一緒に、「利用者に我が家のように暮らしてほしい」と願っていて、利用者へ寄り添った介護として清潔さを実践していた。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアに迷った時は理念に立ち戻り、考えるようにしている。理念は、いつでも目に入るようリビングの壁面に掲げている。	理念は事務所に掲示している。事業所のコンセプトは「新しい息吹を吹き込む」、「あるがままに、ともにあるを大切に」でリビングに掲示している。目に見えるところに掲示することで、職員の目に留まり、意識付けができています。ホーム長は、理念に沿った介護ができていると自信を持って答えてくれた。	理念を大きく掲げ、職員全体に周知できるようにしてみたいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生も慰問や中学生の職場体験にも来て頂いていたが、コロナウイルスの感染拡大防止のため中止している。地域の消防団には、入れさせて頂いている。	職員が出勤時に近隣の方と出会った際には、挨拶を交わす関係ができています。ゴミ捨ての際にも、手を振って挨拶を交わしている。コロナ前には、祭りのお神輿が来たり、公民館での花の展示に参加したりした。幼稚園の運動会にも行ったこともあり、憩いの場へ行き子ども達との触れ合いもあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域の方への理解を深めていたが、コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催を見合わせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの感染拡大防止のため、会議の実施できていないが、書面にて情報の提供を行っている。	コロナにより会議が行えていなかったが、令和5年度より再開する予定である。入居状況、活動報告、GHのお知らせを報告していた。コミュニティー協議会、民生委員、交番、憩いの場、他のGH2施設、高齢者支援センターの方が参加していた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホームの空き情報を提供したり、不明な点は担当者へ連絡し、指導・助言を仰いでおり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	窓口は、ホーム長。月1回、空き情報をFAXで郵送している。外部研修の案内やコロナ関連の情報がメールやFAXで届き、確認している。事故報告や病院受診の際には、メールで報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全のため、内玄関のみ施錠している。内部研修や毎月のフロア会議で身体拘束について学ぶ機会を設けている。	身体拘束はしておらず、日中は玄関の施錠はしていない。年2回、身体拘束と虐待防止の研修を行っている。インターネットで事例を取り上げて、意見を出し合い、出た意見は管理者が確認をしている。スピーチロックにならないように、先に理由を説明するように工夫している。月1回、フロア会議にてヒヤリハットの報告をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や毎月のフロア会議で高齢者虐待について話し合い、理解を深め、普段の行動について振り返る機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修計画には取り入れ、1年に1回は研修を行っている。現在、成年後見制度を活用されている方は2名いらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書をご説明のうえで同意を得ている。不明な点があれば、その都度ご説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2カ月に1度は家族会を行っていたが、コロナウイルスの感染拡大防止のため、今年度の開催を見合わせている。手紙や電話で連絡事項等をお伝えしている。	電話をする際に、意見を聴取している。筋力低下を心配されている家族に対して、行っているリハビリ内容について説明をした。甘酒、おまんじゅうの差し入れがあり、関係継続ができています。敬老の日に、服と手紙が届いて利用者が喜んだ。行事や日常の様子を写真に撮り、郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議で職員の意見や提案を伺っている。また、個別に面談を行い、不安や不満を取り除くように努めている。	随時、ホーム長が職員の意見や提案を聞くようにしている。次期ホーム長と次期管理者は連携が取れていて、新人職員への指導や、利用者へ対応について多くの意見が出る。出た意見は、フロア会議や申し送りノートで共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談の中で、業務に対しての不安や労働条件などへの不満がないかを尋ね、解消につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が講師となって内部研修を開催している。機会があれば外部機関への研修にも出席して頂き、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響で、外部研修へ参加が出来ていない。地域で行われている医療と福祉施設の交流会も今年度も中止された。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い、その方に必要な支援を確認している。また、ご自宅との環境が変わらないよう、ベッドの位置やトイレの場所など、可能な限り近い環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際に、お困りの事やご要望を伺い、プランに活かせるように努めている。プランの更新時も同様にご意見を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	感染予防のため、面談時間も短くなり、十分には行えていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に在るを大切に」をコンセプトに日々のケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会再開出来ていない為、電話などで日頃の様子を伝え、ケアの方向性を相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防の為、施設以外への外出はしていない。面会は中止している。	面会は家族や利用者が申し出た場合には、随時対応している。廊下の椅子が馴染みの場所となっている。職員が帰る際には、「また来てねー」と声を掛けられるくらい今ではすっかり馴染みの関係となっている。利用者同士で「おはよう」「おやすみ。いい夢みてねー」と言葉を交わしたり、一緒にTVを観てたりして過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで過ごして頂く時の配席は、コミュニケーションの取りやすいことを一番に考慮している。食事や家事などの場面で、少しずつ会話される事が増えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で一度退居された方も、退院時にご連絡を頂いて、再入居されたケースもある。ご相談がある時は、しっかりお話を伺い、可能な限りのフォローをさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話から意向や想いを聞き取るように心がけている。	入居時に生活歴を確認している。私の姿と気持ちシートを使って、思いや意向を把握している。利用者の状況を確認し、声掛けのタイミングも工夫している。お風呂や居室等の1対1の場面で意見が出やすく、申し送りノートや口頭で伝えることで情報共有ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご家族から生活歴などを聞き取り、生活環境やリズムが変わらないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合わせた一日の過ごし方を提供できるように努めている。その方が、どこまで出来るのかを把握し、出来る事はしっかりして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランの更新時など、カンファレンスで話し合い、多方面の意見を取り入れたプランを作成している。また、フロア会議でも個々のニーズを話し合う時間を設けている。	入居時に暫定プランを立てて、1ヶ月後に本プランに入り、何もなければ6ヶ月毎に見直している。私の姿と気持ちシートを使って、思いや意向を把握している。2ヶ月に1回、モニタリングを実施して、何かあればケースカンファレンスを開いて、利用者へ寄り添ったケアができるようにしている。月1回のフロア会議でも意見を聴取している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や業務日誌を活用し、気付いた点は申し送っていくようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型に捉われないよう心掛けているが、サービスの多機能化までは至っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防のため、地域行事等への参加が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2回は協力医療機関の往診を受けている。また、1週間に一度は訪問看護のフォローがあり、常にサポートを受けることが出来る体制が整っている。	かかりつけ医は、全員が協力医に転医している。月2回の往診で24時間対応して頂ける。ドクターとの関係も良好で何でも話せる関係が築けている。他科受診は、職員が同行している。月1回歯科衛生士の訪問があり、職員も口腔ケアをしている。	受診時の対応を今一度見直してみたいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療に関する相談ごとは、訪問看護ステーションに相談し、判断して頂いている。緊急時は、協力医療機関に電話連絡し、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病状に合わせ、担当MSWと連携を図っている。また、地域医療連携室主催の情報交換会にも参加し、より密な関係を保てるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ、前例がないため、対応できるように環境を整えているところである。訪問看護ステーションとは、日頃よりコミュニケーションを密に取り、即座に対応できる関係を作っている。	看取りは実施していない。入居時に、「重要事項説明」にて説明し、同意を得ている。看取り期に差し掛かった際には、再度家族や本人に確認するだけでなく、ドクターの意見も反映している。週1回、訪問看護ステーションの方が来られ、連絡が密に取れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について研修は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し、日頃から防災意識を高めている。その際は、火災だけでなく地震や水害の際の対応についても話し合うようにしている。	年2回昼夜想定で火災訓練を実施。ハザードマップは玄関横の廊下、連絡網は事務所に掲示している。水害時には垂直避難をするようにしている。備蓄は、食料を2階の倉庫に3日分保管している。賞味期限間近の物は、職員と利用者が食すことでフードロスにならないようにしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より声掛けには気を遣うよう指導している。個人情報や、利用者へ聞こえないような配慮も心掛けている。入浴介助や排泄介助の際は、人目に触れにくいよう、配慮している。	呼称は、苗字に「さん」付けだが、本人の希望がある場合は、家族の了承の基、別の呼び方で呼ぶこともある。居室へは、ノックをして「入ってもいいですか」と言葉掛けをして入室している。肌が露わになる場面では、タオルを巻いて露出をしないようにしている。接遇やプライバシー研修も実施して、外部研修にも参加することができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、衣類や飲み物など、ご本人に選んで頂く機会を増やせるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのような場面でも、ご本人の意思を尊重し、出来る限りご希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容の利用してカットしている。起床時、洗面整容をして身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は行えていないが、片付け、下膳を一緒に行えるよう努めている。おやつを一緒に手作りして楽しんでいる。	3食ケイタリングで、お米と味噌汁は施設で作っている。ほとんどの方が完食している。おやつ作りでは、ぜんざい、パンケーキ、パフェ、カルピスゼリーを作った。嗜好調査をした上で、嫌いな物の場合は別の物を提供している。お箸、茶碗、コップは馴染みの物を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔状態、嚥下状態、体重の増減を確認しながら、その方に合った食形態・食事量を検討している。水分量の少ない方には好まれる物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。口腔衛生管理体制加算を算定しており、毎月歯科衛生士による口腔ケアの指導を頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄リズムを把握できるようにしている。また、出来る限りトイレで排泄して頂けるように努めている。	トイレは各フロア3ヶ所ある。排泄チェック表を活用し、パターンを把握することで失敗が減り、現状維持ができています。排泄失敗時には、利用者の気持ちに配慮した言葉掛けをしている。布パンツを穿いている方がいて、給水量の多いパンツに変えるように工夫している。数名の方が布パンツで過ごされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を確認したり、腹部マッサージや運動を促し、なるべく薬に頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は午後となっているが、その日の気分や体調によって入浴日を変更して対応している。	入浴は週2回。嫌がる方には、無理強いせず、時間帯や職員を変えて誘導している。嫌がる方へは、お風呂のワードを使わず、「お手伝いして頂けませんか?」「散歩に行こうか?」と言葉掛けをしている。季節湯としてゆず湯の提供もある。入浴時には会話が弾み、プライベートな話が飛び交っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調を考えながら休息を取って頂いています。不安の強い方は、出来る限り寄り添って安心して頂くように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂いたお薬の説明書を個人ファイルに綴じ、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みや趣味を伺い、ご本人に合った生活を送って頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防のため、外出支援が殆ど行えていない。	1階は、テラスに出て日向ぼっこ。2階は、職員と一緒にごみ捨てをしたり、無人の野菜販売所に出掛けたりしている。通院時のドライブが楽しみとなっている。壁面に飾る作品作りをすることでストレスが軽減されている。正月には福笑い、節分には折り紙で鬼を作り、豆まきを楽しんだ。	コロナ終焉に向けて外出やレクの計画を立ててみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はしていませんが、ご自分で管理されている方はいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望されれば必要に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは白熱色と蛍光色の2種類の照明を用意し、時間帯などに応じて使い分けている。また、季節感を味わっていただけるような壁画を作成している。	明るい日の光が差し込むリビングでは、利用者が新聞を読んだりTVを観て寛ぎの時間を過ごしていた。時には職員が寄り添って話に花が咲くこともあり、昼食までの時間は、ほとんどの利用者がリビングで過ごしている。壁面には、季節に合わせた行事の壁飾りを掲示して、四季の移り変わりを感じられる工夫がなされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子やソファを設置し、独りで過ごせる場所も確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物をなるべく持ってきて頂いている。家具の配置は本人、家族と相談して決めている。	エアコン、カーテンが備え付け。毎朝清掃をしていて、家具の配置にも気を付けることで、環境の整備ができています。塗り絵の作品をファイリングしたり、毎日日記をつけている方もいる。歴史小説や新聞を読んだり、お化粧をして身だしなみを整えたりしている。昼食後には、居室で休まれる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送って頂けるよう必要に応じて貼り紙などして、分かりやすい工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200685		
法人名	社会福祉法人 薫風福祉会		
事業所名	グループホーム みどりの家 連島中央(2F)		
所在地	倉敷市連島中央4丁目10-30		
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 6 日	評価結果市町村受理日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あるがままに」「共にあるを大切に」を事業所のコンセプトに掲げ、個人の尊厳と人権を尊重しながら、その人らしい人生の実現を目指しています。また、職員の働く姿勢として「楚々として凛として」という新しいコンセプトを掲げています。コンセプトを实践すべく「行動規範」を掲げ、職務を遂行する上での戒めとしています。また、利用者に対しては、日常生活をスケジュール化しないで、その時どきの個々の思いや生活習慣を大切にしながらの柔軟な支援を心がけています。趣味を生かした余暇活動、散歩、買い物等を楽しんでいただいています。食事は、調理を外部に委託して、その分職員が利用者に十分な関わりが持てるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200685-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200685-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 3 月 27 日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム長は「我が家のように」、「住まいは綺麗に」の精神で環境整備に力を入れている。居室の清掃はもちろんのこと、リビング、廊下、お風呂、トイレ、玄関は清潔さが保たれていた。さらに、夜勤帯の職員が乾燥機の掃除もしている。日常で使う家電製品(炊飯器や洗濯機)なども綺麗して使うことを意識している。ホーム長は、毎日楽しく過ごしてほしいと考えており、「職員が楽しくないと、利用者が楽しめない」との精神で、日々のケアに臨んでいる。利用者の性格は一人ひとり違うので、その人にあった言葉掛けやケアの方法にも工夫を凝らし、トラブルが起きた際の対応や、周りの人に対してのケアも重点的に行えるように取り組んでいる。自分から意見を訴えるのが少ない方へは、言葉掛けのタイミングや寄り添う姿勢を大切にしていて、本や雑誌が好きな方へは、心ゆくまで堪能して頂き、話をするのが好きな方へは話す機会を増やすことで、利用者が生き生きとした生活を送ることに努めている。現ホーム長と次期ホーム長の関係性も良く、評価中もお互いが冗談を言い合うことで、場が和んでいた。そんな2人の思いは一緒に、「利用者に我が家のように暮らしてほしい」と願っていて、利用者へ寄り添った介護として清潔さを実践していた。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアに迷った時は理念に立ち戻り、考えるようにしている。理念は、いつでも目に入るようリビングの壁面に掲げている。	理念は事務所に掲示している。事業所のコンセプトは「新しい息吹を吹き込む」、「あるがままに、ともにあるを大切に」でリビングに掲示している。目に見えるところに掲示することで、職員の目に留まり、意識付けができています。ホーム長は、理念に沿った介護ができていると自信を持って答えてくれた。	理念を大きく掲げ、職員全体に周知できるようにしてみたいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生も慰問や中学生の職場体験にも来て頂いていたが、コロナウイルスの感染拡大防止のため中止している。地域の消防団には、入れさせて頂いている。	職員が出勤時に近隣の方と出会った際には、挨拶を交わす関係ができています。ゴミ捨ての際にも、手を振って挨拶を交わしている。コロナ前には、祭りのお神輿が来たり、公民館での花の展示に参加したりした。幼稚園の運動会にも行ったこともあり、憩いの場へ行き子ども達との触れ合いもあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域の方への理解を深めていたが、コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催を見合わせている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの感染拡大防止のため、会議の実施できていないが、書面にて情報の提供を行っている。	コロナにより会議が行えていなかったが、令和5年度より再開する予定である。入居状況、活動報告、GHのお知らせを報告していた。コミュニティー協議会、民生委員、交番、憩いの場、他のGH2施設、高齢者支援センターの方が参加していた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホームの空き情報を提供したり、不明な点は担当者へ連絡し、指導・助言を仰いでおり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	窓口は、ホーム長。月1回、空き情報をFAXで郵送している。外部研修の案内やコロナ関連の情報がメールやFAXで届き、確認している。事故報告や病院受診の際には、メールで報告をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のフロア会議で身体拘束について学び、普段の行動について振り返る機会を作っている。	身体拘束はしておらず、日中は玄関の施錠はしていない。年2回、身体拘束と虐待防止の研修を行っている。インターネットで事例を取り上げて、意見を出し合い、出た意見は管理者が確認をしている。スピーチロックにならないように、先に理由を説明するように工夫している。月1回、フロア会議にてヒヤリハットの報告をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や毎月のフロア会議で高齢者虐待について話し合い、理解を深め、普段の行動について振り返る機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修計画には取り入れ、1年に1回は研修を行っている。現在、成年後見制度を活用されている方は1名いらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書をご説明のうえで同意を得ている。不明な点があれば、その都度ご説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2カ月に1度は家族会を行っていたが、コロナウイルスの感染拡大防止のため、今年度の開催を見合わせている。手紙や電話で連絡事項等をお伝えしている。	電話をする際に、意見を聴取している。筋力低下を心配されている家族に対して、行っているリハビリ内容について説明をした。甘酒、おまんじゅうの差し入れがあり、関係継続ができています。敬老の日に、服と手紙が届いて利用者が喜んだ。行事や日常の様子を写真に撮り、郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議で職員の意見や提案を伺っている。また、個別に面談を行い、不安や不満を取り除くように努めている。	随時、ホーム長が職員の意見や提案を聞くようにしている。次期ホーム長と次期管理者は連携が取れていて、新人職員への指導や、利用者へ対応について多くの意見が出る。出た意見は、フロア会議や申し送りノートで共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談の中で、業務に対しての不安や労働条件などへの不満がないかを尋ね、解消につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が講師となって内部研修を開催している。機会があれば外部機関への研修にも出席して頂き、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響で、外部研修へ参加が出来ていない。地域で行われている医療と福祉施設の交流会も今年度も中止された。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い、その方に必要な支援を確認している。また、ご自宅との環境が変わらないよう、ベッドの位置やトイレの場所など、可能な限り近い環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際に、お困りの事やご要望を伺い、プランに活かせるように努めている。プランの更新時も同様にご意見を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	感染予防のため、面談時間も短くなり、十分には行えていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に在るを大切に」をコンセプトに日々のケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へも情報を伝え、ケアの方向性を相談している。協力医療機関以外の専門医への受診はご家族へお願いしている。衣替え等の身の回りのお手伝いについては、フロアでの面会を禁止しているため玄関での受け渡しとしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防の為、施設以外への外出はしていない。面会は中止している。	面会は家族や利用者が申し出た場合には、随時対応している。廊下の椅子が馴染みの場所となっている。職員が帰る際には、「また来てねー」と声を掛けられるくらい今ではすっかり馴染みの関係となっている。利用者同士で「おはよう」「おやすみ。いい夢みてねー」と言葉を交わしたり、一緒にTVを観てたりして過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで過ごして頂く時の配席は、コミュニケーションの取りやすいことを一番に考慮している。食事や家事などの場面で、少しずつ会話される事が増えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で一度退居された方も、退院時にご連絡を頂いて、再入居されたケースもある。ご相談がある時は、しっかりお話を伺い、可能な限りのフォローをさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話から意向や想いを聞き取るように心がけている。	入居時に生活歴を確認している。私の姿と気持ちシートを使って、思いや意向を把握している。利用者の状況を確認し、声掛けのタイミングも工夫している。お風呂や居室等の1対1の場面で意見が出やすく、申し送りノートや口頭で伝えることで情報共有ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご家族から生活歴などを聞き取り、生活環境やリズムが変わらないよう努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合わせた一日の過ごし方を提供できるように努めている。その方が、どこまで出来るのかを把握し、出来る事はしっかりして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランの更新時など、カンファレンスで話し合い、多方面の意見を取り入れたプランを作成している。また、フロア会議でも個々のニーズを話し合う時間を設けている。	入居時に暫定プランを立てて、1ヶ月後に本プランに入り、何もなければ6ヶ月毎に見直している。私の姿と気持ちシートを使って、思いや意向を把握している。2ヶ月に1回、モニタリングを実施して、何かあればケースカンファレンスを開いて、利用者に寄り添ったケアができるようにしている。月1回のフロア会議でも意見を聴取している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や業務日誌を活用し、気付いた点は申し送っていくようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型に捉われないよう心掛けているが、サービスの多機能化までは至っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防のため、地域行事等への参加が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2回は協力医療機関の往診を受けている。また、1週間に一度は訪問看護のフォローがあり、常にサポートを受けることが出来る体制が整っている。	かかりつけ医は、全員が協力医に転医している。月2回の往診で24時間対応して頂ける。ドクターとの関係も良好で何でも話せる関係が築けている。他科受診は、職員が同行している。月1回歯科衛生士の訪問があり、職員も口腔ケアをしている。	受診時の対応を今一度見直してみたいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療に関する相談ごとは、訪問看護ステーションに相談し、判断して頂いている。 緊急時は、協力医療機関に電話連絡し、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病状に合わせ、担当MSWと連携を図っている。 また、地域医療連携室主催の情報交換会にも参加し、より密な関係を保てるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ、前例がないため、対応できるように環境を整えているところである。訪問看護ステーションとは、日頃よりコミュニケーションを密に取り、即座に対応できる関係を作っている。	看取りは実施していない。入居時に、「重要事項説明」にて説明し、同意を得ている。看取り期に差し掛かった際には、再度家族や本人に確認するだけでなく、ドクターの意見も反映している。週1回、訪問看護ステーションの方が来られ、連絡が密に取れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について研修は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し、日頃から防災意識を高めている。その際は、火災だけでなく地震や水害の際の対応についても話し合うようにしている。	年2回昼夜想定で火災訓練を実施。ハザードマップは玄関横の廊下、連絡網は事務所に掲示している。水害時には垂直避難をするようにしている。備蓄は、食料を2階の倉庫に3日分保管している。賞味期限間近の物は、職員と利用者が食すことでフードロスにならないようにしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より声掛けには気を遣うよう指導している。個人情報、利用者へ聞こえないような配慮も心掛けている。入浴介助や排泄介助の際は、人目に触れにくいよう、配慮している。	呼称は、苗字に「さん」付けだが、本人の希望がある場合は、家族の了承の基、別の呼び方で呼ぶこともある。居室へは、ノックをして「入ってもいいですか」と言葉掛けをして入室している。肌が露わになる場面では、タオルを巻いて露出をしないようにしている。接遇やプライバシー研修も実施して、外部研修にも参加することができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、衣類や飲み物など、ご本人に選んで頂く機会を増やせるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのような場面でも、ご本人の意思を尊重し、出来る限りご希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に近隣の散髪屋の方が来られ、カットして頂いている。毎朝、寝ぐせ直しスプレーを使い、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は行えていないが、盛り付けや片付けは一緒に出来るように努めている。	3食ケイタリングで、お米と味噌汁は施設で作っている。ほとんどの方が完食している。おやつ作りでは、ぜんざい、パンケーキ、パフェ、カルピスゼリーを作った。嗜好調査をした上で、嫌いな物の場合は別の物を提供している。お箸、茶碗、コップは馴染みの物を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔状態、嚥下状態、体重の増減を確認しながら、その方に合った食形態・食事量を検討している。水分量の少ない方には好まれる物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。口腔衛生管理体制加算を算定しており、毎月歯科衛生士による口腔ケアの指導を頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄リズムを把握できるようにしている。また、出来る限りトイレで排泄して頂けるように努めている。	トイレは各フロア3ヶ所ある。排泄チェック表を活用し、パターンを把握することで失敗が減り、現状維持ができています。排泄失敗時には、利用者の気持ちに配慮した言葉掛けをしている。布パンツを穿いている方がいて、給水量の多いパンツに変えるように工夫している。数名の方が布パンツで過ごされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を確認したり、腹部マッサージや運動を促し、なるべく薬に頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は13時～15時頃と概ね決められているが、ご本人の意向に合わせて対応している。曜日や頻度は特に定めていない。	入浴は週2回。嫌がる方には、無理強いせず、時間帯や職員を変えて誘導している。嫌がる方へは、お風呂のワードを使わず、「お手伝いして頂けませんか?」「散歩に行こうか?」と言葉掛けをしている。季節湯としてゆず湯の提供もある。入浴時には会話が弾み、プライベートな話が飛び交っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調を考えながら休息を取って頂いています。不安の強い方は、出来る限り寄り添って安心して頂くように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂いたお薬の説明書を個人ファイルに綴じ、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みや趣味を伺い、ご本人に合った生活を送って頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防のため、外出支援が殆ど行えていない。	1階は、テラスに出て日向ぼっこ。2階は、職員と一緒にごみ捨てをしたり、無人の野菜販売所に出掛けたりしている。通院時のドライブが楽しみとなっている。壁面に飾る作品作りをすることでストレスが軽減されている。正月には福笑い、節分には折り紙で鬼を作り、豆まきを楽しんだ。	コロナ終焉に向けて外出やレクの計画を立ててみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はしていませんが、ご自分で管理されている方はいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望されれば必要に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは白熱色と蛍光色の2種類の照明を用意し、時間帯などに応じて使い分けている。また、季節感を味わっていただけるような壁画を作成している。	明るい日の光が差し込むリビングでは、利用者が新聞を読んだりTVを観て寛ぎの時間を過ごしていた。時には職員が寄り添って話に花が咲くこともあり、昼食までの時間は、ほとんどの利用者がリビングで過ごしている。壁面には、季節に合わせた行事の壁飾りを掲示して、四季の移り変わりを感じられる工夫がなされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子やソファを設置し、独りで過ごせる場所も確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物をなるべく持ってきて頂いている。家具の配置は本人、家族と相談して決めている。	エアコン、カーテンが備え付け。毎朝清掃をしていて、家具の配置にも気を付けることで、環境の整備ができています。塗り絵の作品をファイリングしたり、毎日日記をつけている方もいる。歴史小説や新聞を読んだり、お化粧をして身だしなみを整えたりしている。昼食後には、居室で休まれる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送って頂けるよう必要に応じて貼り紙などして、分かりやすい工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない